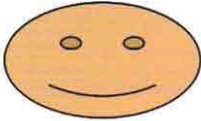


館高東京同窓会会報

第 24 号 平成 22 年 2 月

発行人 大隈 清道
〒273-0027 千葉県船橋市海神西
1-1193-1-1006



元気で～すー会員便り



宮崎 浩 昭和 25 年 3 月卒（館林市内加法師町出身）東京都中野区在住

仕 事 元広告代理店（昭和企画）経営

趣 味 俳句、旅行、カラオケ

月に 5 回ほど俳句会に参加し、俳句三昧の生活。妻とほぼ月 1 回小旅行を楽しんでいる。カラオケで声を出し、健康と平康感を保つ心掛け。



鈴木 修身 昭和 35 年卒（旧梅島村出身）東京都小金井市在住

仕 事 小金井市役所（元職、平成 14 年 3 月退）

趣 味 山登り、写真、野菜作り

地元の市役所（小金井市）に約 40 年勤務、退職後は民生委員、町内会長などの地元ボランティアに明け暮れる毎日です。



中村 敏 昭和 52 年 3 月卒（館林市堀工町出身）東京都新宿区在住

仕 事 日本農薬㈱営業本部第二営業部勤務

仕事で転勤し、終の棲家に北海道の札幌を選びました。現在東京（高田馬場）に単身赴任中、1 回/月帰省して冬はスノーボード、夏は自転車・パラグライダーを楽しんでおります。



増尾 和彦 昭和 31 年 3 月卒（邑楽町旧長柄村出身）東京都福生市在住

仕 事 住職（曹洞宗僧侶）元 NEC 三栄㈱勤務

趣 味 炭焼き、登山、ゴルフ

30 歳代で始めた趣味の坐禅が高じて、定年退職後の 60 歳で曹洞宗の専門僧堂にて修行後、住職となり現在に至る。



鮎川 聡 昭和 51 年 3 月卒（旧館林町出身）埼玉県所沢市在住

米国の大学及び大学院で学んだ後、外資系マーケティングコンサルティング企業、自動車業界向け情報サービス企業の責任者を経て、現在は、外資系調査会社のビジネスコンサルティング部門で、日本および韓国市場に対してマーケティング ROI に関するモデリングサービスビジネス開拓に携わっている。



容易でない CO₂発生 25%削減

会長 大隈 清道

皆様、お元気でお過ごしのこととお察しいたします。今期もこのたび会報発刊の運びとなりました。悩み続けた財務の窮状も漸く好転し、会報の内容も僅かずつですが充実を計ることができるようになってきました。さらに来期は努力を重ね、広く皆様からの御寄稿をお願いできるようにしたいと考えております。

ところで、民主党政権になって、前政権では考えられなかったいくつかの大方針が打立てられました。その中には、どこまで実現できるかは別として、旗印とすることで政治姿勢の問題として評価されるものも多いところですが、ひとつだけ、そんなレベルで片付けられない勇み足があることにお気づきでしょうか。

それは、“向う 10 年間に CO₂ 発生を 25%削減する”というもの。政治的キャンペーンとして一言で唱えるのは簡単ですが、技術的には極度に達成困難なとてもない数値目標といえます。10 年間でそれを達成するには非現実的ともいえる数々の強硬策が必要になるでしょう。例えば“自家用車やガソリンに高率の課税をする”、“単身世帯の資産や光熱費の税率を上げる”また“電力・ガスは使用量による累進課税を取入れる”などなど。

しかし一方、地球環境を研究するいろいろな分野の研究者の指摘するところを総じてみると、“向う 10 年で CO₂ 発生を 25%抑える”というのは決して乱暴な目標ではなく、人類の生存に欠かせない努力であることが分ります。

民主党の掲げた目標はその意味で間違ったものではないといえます。問題は、その目標を達成するための強硬策が何も講じられていないこと。にも拘らず、この目標をなせば国際公約として打出してしまったことです。自らの方針を宣言する前に、大量排出国に努力を促す駆引きをもっと強く押し出すべきであったと感じます。宣言してしまった今、達成できなければ国家の信用に傷がつき、外交的にも不利を負うことになるでしょう。政権は変わっても外交の稚拙さは相変わらずの印象を受けるところです。

今回の CO₂ 削減に関する民主党政権の一連の動き、掲げた旗印は正しかったものの、旗の振り方に大いに問題があったと感じられるところです。

本校同窓会

90 周年事業として会員名簿を発行へ

群馬県立館林高等学校同窓会の総会は平成 21 年 11 月 14 日、館林市・ジョイハウスを会場に 264 名の参加を得て盛大に開催された。

総会では、平成 20 年度事業・決算報告、平成 21 年度事業・予算が審議されたほか、本部役員改選が提案され、岩瀬弥市会長（昭和 25 年卒）の重任が決まった。さらに館林支部（遠藤和昭支部長＝昭和 42 年卒）の発足が報告され承認された。

そして重任された岩瀬会長から創立 90 周年事業として、平成 23 年 7 月を目標に、同窓会名簿を発行することが提案され、決定した。

第 28 回総会報告

去る平成 20 年 10 月 24 日（土）、標記会員総会が皇居北の丸近い都心のホテルグランドパレスにおいて開催された。

総会は、①議題の審議、②講演会、③懇親会の 3 部で構成され、昭和 40 年卒の方が中心になって運営にあたりました。審議では、出席した会員諸氏のご協力により予定された議案は全て承認可決されました。

講演会は、昭和 30 年卒の内田信也氏が、40 年間にわたる高校野球指導者生活の体験を基に「野球観戦の楽しみ方ー技術編 投手・守備・攻撃」との題で熟演されました。

また、懇親会では、昭和 24 年 3 月卒の大塚荘治画伯から東京同窓会を通して館林市に寄贈した 50 号サイズの絵画「春の舞 (part II)」(日仏交流 150 周年記念 芸術都市パリ大賞受賞作品) が鈴木敏男名誉会長から披露されるなど、和やかに充実した会となりました。

ご来賓の皆様及び会員諸兄には深甚なる敬意を表します。

1. 参加者 42 名

(イ) ご来賓 12 名 猪熊仁校長、岩瀬弥市同窓会長、同窓会各支部長、群馬県人会連合会会長、他校東京同窓会関係者の方々です。

(ロ) 会員 30 名 会員は、長年出席戴いてきた先輩が高齢化に伴い欠席が目立ちましたが、新たに若い年代の方の参加が見られました。

2. 事業報告、会計報告並びに決算は総会案内の通り、予算案は表 1 のとおりです。

3. 役員改正

今総会で任期満了となることから役員改選が行われました。新たに 2 年の任期で就任した役員は表 2 のとおりです。

4. 組織活性化

従来から提案されていた学年別、サークル別、地域別の組織化・活性化に加え、ゴルフ以外の趣味の会の立ち上げによる活性化を目指すことが再度確認された。

表 1 第 29 期予算書

(2009 年 10 月 1 日～2010 年 9 月 30 日)

収入の部	
項 目	金 額
前期繰越金	300,803
年会費収入	630,000
総会費収入	320,000
懇親会収入	450,000
広告収入	30,000
雑収入	250,000
合 計	1,980,803

支出の部	
項 目	金 額
総会運営費	550,000
懇親会運営費	400,000
印刷代	310,000
通信費	450,000
交流費	120,000
雑費	50,000
次期繰越金	100,803
合 計	1,980,803

表 2 役員名簿

(2009 年 10 月 1 日～2011 年 9 月 30 日)

名誉会長	鈴木 敏男	昭和 23 年卒
相 談 役	岩崎 三樹	昭和 23 年卒
"	中村 茂八郎	昭和 25 年卒
会 長	大隈 清道	昭和 29 年卒
副 会 長	岩崎 充利	昭和 29 年卒
"	宇治川 譲	昭和 29 年卒
"	内田 信也	昭和 30 年卒
"	鈴木 昇	昭和 35 年卒
"	谷田部 和之	昭和 35 年卒
"	相澤 建志	昭和 36 年卒
"	大山 稔	昭和 36 年卒
"	山岸 正	昭和 36 年卒
"	横山 英和	昭和 40 年卒
書 記	浜田 邦夫	昭和 39 年卒
"	篠崎 睦男	昭和 40 年卒
会 計	河村 博	昭和 51 年卒
"	小林 功一	昭和 54 年卒
監 査	葭葉 昌司	昭和 27 年卒
"	荻野 秀文	昭和 28 年卒

子規と私とベースボール



昭和 30 年卒 内田 信也

うちだ しんや：関西外国語大学教授。源氏物語など中世文学を研究。邑楽町（旧高島村）出身。国学院大学文学部卒。国学院高校に奉職。同校野球部監督・部長として高校野球を指導。指導方針は「生徒が持つ長所を褒めて育てる」を実践し、「野球人として秀でることも大切だがそれ以上に一社会人として、人間としてバランスのとれた人に育つこと」を目標に指導を行ってきた。講演では「投げる、打つ、守る」の面白さについて語った。

一野球発展のパイオニア—正岡子規—

「無数の遊びあれど(略)愉快とよばしむるものただ一ツあり、ベースボールなり」(正岡子規<筆まかせ>から)

明治文学界の泰斗・正岡子規はまた、日本に野球という競技が輸入された草創期、自らがプレーをし、野球用語の日本語訳などをはじめ、独自の境地を開いた俳句、短歌などを通じて野球の普及に努め、我が国の野球発展の基礎固めをしたパイオニアであります。

野球好きの子規は

久方の アメリカ人の はじめにし
ベースボールは 見れど飽かぬかも
若人の すなる遊びは さわにあれど
ベースボールに 如くものはあらじ
九つの人 九つのあらそいに
ベースボールの 今日も暮れけり

このような短歌を詠むほど、野球に魅せられていたのです。

正岡子規は慶応三年、四国は伊予の国松山に生まれ、明治十六年松山中学を退学、十七歳で上京、翌十七年東京大学予備門(後の第一高等学校)に合格、同級生には夏目漱石、山田美妙、南方熊楠らがいました。子規はこの学校で、ベースボールという遊びに出会ったのです。そして、東京で学んだベースボールを郷里松山で、後の門人、高浜虚子や河東碧梧桐に教えていたのです。明治三十一年、「歌よみに与える書」を発表して、万葉集の伝統に立って「写生」の態度

を主張しました。翌三十二年、「根岸短歌会」を設立し、伊藤左千夫、長塚節らと和歌革新運動を展開した文学者であります。

「ベースボール」は明治五年(1872年)、東京大学の前身である開成学校の外国人教師H・ウイルソンによって日本に伝えられたとされています。子規自身についていえば、さまざまな文献によって、明治十八年(1885年)にはすでにベースボールをプレーしていたのであります。子規がスポーツの中でもっとも愛好したのが、ベースボール=野球だったのです。子規は当時では珍しい独自の野球スコアを考案し、記録として残しています。文献によれば、日本最古の野球スコアと言われているものです。「打者」「走者」「四球」「直球」など、今に伝わる野球用語も子規の考案と言われています。明治二十八年(1895年)の一高野球部史で中馬庚が初めてベースボールを「野球」と訳しましたが、「本名・常規」「幼名・処之助」といった子規が、通称を「升」と名乗ったことから雅号として「能球」「野球」の当て字を使い、一高で子規より後輩である中馬庚より早い時期に「野球」の訳語二文字を使っていたのです。

郷里の松山に「ベースボール」を伝えたのは子規であると言われています。明治二十二年(1889年)、子規は松山中学校の生徒であった河東碧梧桐に、翌年には高浜虚子に野球を教えています。子規は野球に限りない愛情をそそぎ郷里松山で野球を啓蒙し、野球王国松山の礎を作った一人

であります。その後、四国の中等野球は急速に発展し、そのレベルは高く、全国大会では常に上位を占めるようになったのです。昭和になり戦前戦後を通して常に高いレベルを維持し、高校野球をリードしてきました。

一 野球と出会った小学生時代一

私は昭和十一年の生まれです。終戦の時は小学校三年生、あばら家はあるものの、食べるもの、着るもの、遊ぶ道具、勉強する本までもがなかった時代でした。その終戦の翌年、昭和二十一年に我が小学校にハイカラな英語の教師が着任したのです。その先生から、あの子規の歌にある「若人のすなる遊びはさはにあれどベースボールに如くものはあらじ」とある「野球」という遊びを覚えて頂いたのです。

その後、中学校で野球部に入部、郡大会で無名の中学校の投手として出場し、準優勝したのです。戦後、私の郷里で野球が急速に普及したのは、群馬県の小泉・太田（飛行場）に終戦直後の進駐軍のベースキャンプが存在していたからだと思われます。米軍のキャンプ地小泉・太田で行われた野球の練習や試合を見て、そのキャンプ地で働く近隣在住の日本人が野球道具を調達して町村に持ち込んだことも大きく影響したのだと思います。

一 生涯携わる道ができた館高時代一

無名の中学校から館林高等学校に入学、直ちに野球部に入部、その時の三年生エースは、卒業後は高崎鉄道管理局（ノンプロ）で活躍した先輩でした。その投手が卒業し、二年生にエースが不在だったので、無名中学校から入部した私は、当時の監督から、コントロールはないが抜群のスピードをだす一年生の投手がいると認められたのです。その結果、一年生の秋から投手として出場できたことは私にとってラッキーなことであったと思います。当時、群馬県は稲川監督が率いる桐生高校の全盛期だったのです。その桐生高校を一年生投手の私が三点に抑えたことが高く評価され、その後の私の部活動に大変良い影響を与えたのであります。この時代の県下の著名な対戦球児には桐生高校の毒島（元東映フライヤーズ）や今泉（ノンプロ）そして、

前橋高校の中（元中日ドラゴンズ）などプロやノンプロに行く名選手が多くプレーしていたのです。球場は桐生新川球場、高崎城南球場、前橋敷島球場、伊勢崎華蔵寺球場、館林分福球場、三の丸球場など、どれもこれも青春時代のエネルギーを発散した思い出多い球場でした。

館林高校時代最も印象に残った試合は、二年次の秋季大会準々決勝、対前橋高校戦でした。試合は延長十二回、二対一で惜敗しましたが、その時すばらしい球友を得ることができたのです。試合前のウォーミングアップの時、中投手と並んで投球練習をしていた会話の中で、彼は二年の時にプロ野球に行ってプレーしたいという意志をはっきり抱いていたことに驚かされたのです。私は三年になり、校長、野球部長に呼び出され、二つの大学野球部から勧誘の話があるがどうかと言われ、私は将来、プロ野球に就職するか教師になりたいという希望を抱いておりましたので、即大学進学を決めたのです。

大学の野球部では一年目からベンチに入り、神宮球場で学習院大学（当時一部）との入れ替え戦では代打で出場しました。その後準硬式野球部では、東日本大会で優勝、全日本大会で準優勝に輝くことが出来たのです。四年間神宮球場で大学野球を楽しむことができたのは、我が人生において大変有意義な時間でありました。

私の大学時代の六大学は立教大学全盛期で、長嶋（元巨人）や杉浦（元南海）が活躍し、東都大学では日本大学が一世を風靡していた時代でした。

正岡子規が東京で学んだ野球を四国松山で俳句仲間に教えたように、私も大学の野球を郷里群馬に持ち帰り、お盆に行く野球大会の練習で後輩に技術指導をしたり、私自身試合に出場したりして、町内野球のレベルアップに少しでも貢献したいと、情熱を注いでいた青春時代でもあったのです。何年か後に、わが町から足利工業高校、桐生高校、前橋工業高校に進学して甲子園出場を果たした球児が居ることを伺い、大変嬉しく思いました。

大学卒業後は、野球部長小川教授、今泉教授のご好意で國學院に奉職することになり、高校

で教科を担当しながら野球部の監督・部長を四十年間勤め、多くの球児に指導出来たことは大変幸せなことでありました。現在は大阪まで新幹線で毎週通勤して、週三日間の講義を楽しみながら野球部にも助言をしています。昨年は広島カープにドラフトで指名された森田二投手が入団し、今後の活躍が期待されています。

教え子はすでに五十歳を越えている者もありますが、それぞれの結婚式などに招待して頂いたとき、「教師になって本当によかったなあ」と言う思いでいっぱいになります。東京都大会では甲子園出場を目の前にして、早稲田実業高校（元ヤクルトスワローズ荒木投手）に惜敗し、夢を絶たれた時の思い出は、生徒一人ひとりにとっても青春の良い思い出になったのではないかと思う昨今であります。

—夢を与える大リーガーの出現—

終戦後の小学校のころに初めてベースボールという遊びを知り、高校・大学時代には多くの球友に恵まれ、全国に親友が出来たこと、そして、多くの教え子が社会で貢献していることは、我が人生の宝であると同時に生き甲斐にもなっております。

また、海外では野茂選手を筆頭に、イチロー、松井、田口、井口、斉藤、松坂、福留、小林、藪選手など多くの日本人がメジャーという世界

の舞台で活躍しています。國學院久我山高校から青山学院大学そしてダイエーで活躍した井口選手もメジャーでプレーしていることは、高校時代から良く知っているだけに、私にとっては、メジャーがより近くなったような気がしております。私の世代には、このような時代が来るとは夢のようであります。

体力的にも、技術的にも、私の子供の時よりは、格段に向上したからこそ、今のように、日本人がメジャーリーグで活躍できるようになったのだと思います。それにしても、ある程度、将来を約束されていながら日本のプロ野球を離れ、単身アメリカへ渡り、様々な試練を乗り越えて、メジャー通算 100 勝をあげ、今の日本人の活躍の道を切り開いた野茂選手のパイオニアスピリットには、本当に敬意を表したいと思えます。

日本全体に閉塞感が漂っている今、メジャーリーグで世界の選手たちの中で、活躍している日本人選手ほど、私たちに勇気と希望を与えてくれるものではありません。あの明治時代の文豪、正岡子規もさぞびっくりしていることと思えます。野球に限らず、いろいろな分野で世界に挑戦する若い人たちがどんどん出てきて欲しいと思います。そして、日本はもとより、世界のためにますます貢献することを期待しております。

観桜懇親会開催のお知らせ

館高東京同窓会は、会員諸氏との懇親・交流を図る目的で下記次第による観桜懇親会を開催します。会場となるホテル グランドパレスは、皇居北の丸公園、靖国神社に近く、なかでも千鳥ヶ淵の散策には大変な人出が予想される都内有数の桜の名所まで数分です。この機会に観桜散策を試みてはいかがでしょうか。

春のひと時、ぜひ先輩、同期生、後輩入り混じっての懇親会にお気軽にご参加ください。お待ちしております。

記

日 時 平成 22 年 4 月 3 日（土）午前 11 時～
会 場 ホテル グランドパレス（1F レストラン カトリア）
東京都千代田区飯田橋 1-1-1 TEL 03-3264-2401
会 費 4,000 円（当日受付）
申込先 〒273-0027 千葉県船橋市海神西 1-1 193-1-1006
大隈 清道方
TEL / FAX 047-433-6790
申込締切 平成 22 年 3 月 15 日（月）

和気あひあひの 年2回コンペ



茨城ゴルフ倶楽部に集ったスタート前の部会員

ゴルフ部会（中村茂八郎部会長）は、50名ほどの登録者で年2回のコンペを開催しています。

春には本校同窓会が板倉ゴルフ場を会場に開催する懇親ゴルフ大会に参加し、東京同窓会の枠を超えた交流を図り、秋には独自にゴルフコンペを実施して懇親を深めています。近年、部会員の高齢化に伴い参加者減少の傾向にあるため、新たな部会員の参加が期待されます。希望者は、卒年と氏名、連絡先を記して東京同窓会事務局（Fax 048-974-6680）まで申し込みください。

第28回コンペの成績(成績はWペリア方式)

順位	氏名	卒年	グロス	HDCP	ネット
優勝	内田 信也	S30	98	27.6	70.4
2位	三田 成男	S27	84	12	72
3位	中村 貞夫	S28	84	12	72
4位	小林 啓八	S28	90	18	72
5位	谷田部和之	S35	96	24	72
6位	西田 一俊	S31	95	22.8	72.2
7位	長谷川 操	S28	94	19.2	74.8
8位	曾根 利夫	S28	86	10.8	75.2
9位	車崎 光知	S27	95	19.2	75.8
10位	岡村 昌二	S31	100	24	76
11位	浜田 邦夫	S39	94	18	76
12位	中村茂八郎	S25	87	10.8	76.2
13位	鈴木 昇	S35	92	15.6	76.4
14位	新里 武男	S13	106	28.8	77.2
15位	築比地 繁	S28	100	22.8	77.2
16位	渋井 恒夫	S30	94	16.8	77.2
17位	大野 喜平	S28	92	14.4	77.6
18位	山崎 浩志	S28	109	31.2	77.8
19位	荒川 磯雄	S28	97	18	79

第28回コンペは、平成21年11月16日(月)茨城ゴルフ倶楽部東コースにおいて19名の参加者を得て開催しました。各ホールを囲む木々は青々とした松の木に混じり黄色や赤に色づき始めた葉が美しく映えて、曇天でしたが絶好のコンディションの中、数々のプロのトーナメント開催の会場としても知られる名門コースを舞台に熱戦が繰り上げられました。

なかでも、長老の新里武男さんは大正9年生まれ、あと数ヶ月で90歳になるという高齢ながら、正確なショットとリズムカルな動きは若々しく、一緒にラウンドした後輩のお手本でした。プレイ後の19番ホールではその健康の秘訣とプレイ振りを見習いたいと、参加者一同の称賛的となりました。当日の成績は左表の通り。

また、春に行われた板倉ゴルフ場での94名参加の本校同窓会コンペには、東京同窓会ゴルフ部から22名が参加、中村貞夫さん(28年卒)が準優勝、車崎光知さん(27年卒)が4位に入賞、三田成男さん(27年卒)が37, 41グロス78のラウンドでベストグロスに輝きました。

第11回同窓会懇親ゴルフ大会

期日 平成22年5月12日(水)

会場 板倉ゴルフ場

参加希望者は下記まで連絡してください
群馬県立館林高等学校同窓会事務局
〒374-0041 館林市富士原町 1241
TEL 0276-72-4307

60の手習い

—書道のすすめ—



昭和 35 年卒 鈴木 昇

退職後、62歳で書道を習い始め6年半が過ぎた。今では趣味の一つとして、私生活部分の多くを占めるようになり、生活に張りが生まれリズムができた。

◇ 書道を習い始めたきっかけ ◇

直接的なきっかけは、自分の名前ぐらい毛筆で書けるようになりたいとの思いからだった。結婚式や葬式、パーティ等での受付で毛筆署名をさせられ、恥をかき続けてきたことや、祝儀袋や香典袋を毛筆で書けず、学生時代に書道をやっていた妻にその都度頼むというふがない思いが募っていたからである。ただ、以前から書に興味を持っていたことは確かである。その遠因を探ってみると、亡き父と亡き尺八師範からの影響に思い当たる。

父は明治の人で、私が大学に入学し上京するとこまめに手紙をくれた。多くは万年筆だったが時々毛筆があった。息子が言うのはおこがましいが、なかなかの達筆で流れる筆文字に見入ったことを思い出す。

尺八の師・神如道先生は大学のサークル(尺八と琴の会)の師範で、日本の古典尺八を集大成した著名な方であった。その技術力は言うまでもなく、人間としてスケールが大きく、私が最も尊敬した人物である。その師が尺八の稽古の後、時折、人生訓を色紙に書いて下さった。その人間味あふれる柔らかい見事な筆文字に、我々学生は感動したものである。その書は我が家の家宝として大事に保管され、時々床の間を飾っている。

この二人から得た感動が、いつか自分も書いてみたいとの思いになり心の底に潜在していたのであろう。

◇ 書道教室の仕組みと稽古風景 ◇

退職後、早速行動に移した。幸いにして私が住んでいる東久留米市にはいろいろな書道教室があり、多くは公民館が稽古場になっている。いくつかの教室を見学し、先生の書と人柄、生徒達の人柄、教室の雰囲気等々を観察し、自分に合った現在の会に入会した。

参考までに、当会は首都圏を中心に山梨県等を含め約60の支部を持つ。通常稽古は本部が毎月発行する手本を基に自宅で練習し、週1回教室に持って行き先生に直して戴く。そして1ヶ月かけて完成し本部へ提出、本部の審査を受け進級する仕組みである。因みに、当会は7級からスタートし1級に昇級すると、年2回の昇段試験を受ける機会ができ、初段から七段まで進む。次いで準師範、師範格、師範と登りつめる仕組みになっている。

また、当会はこうした日常の稽古以外に年2回展覧会を開催している。春は東京銀座画廊で比較的小型の作品を中心に、冬は上野の東京都美術館で大型の作品を中心に競書を兼ねて開催している。

以上の仕組みは、他の会も似たりよったりだと思う。

さて、話を戻すと、入会したものの私は小学校で習って以来であり、理想と現実は大違い。先生からまず筆の持ち方から丁寧に教えて戴いた。最初はどうしても鉛筆やボールペンのように根元に近いところを持ってしまい筆の動きが悪くなる。日常の教室の稽古風景は、先生の筆先を息を止めて観察し、筆の入れ方(起筆)、運び方、抜き方、止め方(収筆)等、力の入れ具合の微妙な違いを肌で感じ、

それを盗み、真似をする。何度も繰り返し練習を重ね、基本を一つ一つ覚えていく。なお、後で知ったことだが、現在の教室の先生は上述した冬の競書展覧会で内閣総理大臣賞を受賞している大家である。

我々の目的は、多くの場合プロになるのではなく書を楽しむことにある。従って、中には昇段など我関せずと昇段試験など受けず、毎月の手本のみを書いて楽しんでいる方もいるし、展覧会に出品しない方もいる。それぞれ自由に自分の目的をもって楽しんでいる。

私の場合、習うからには目的を持とう、上位に挑戦したほうが張り合いが出るとの思いから昇段試験に挑戦してきた。途中、書道を習い始めて2年目から某社の監査役として再就職したため、練習時間は制約されてきたが挑戦を続け、師範試験に合格した。また、上述した春と冬の展覧会にも欠かさず出品し、何度か受賞の栄を得た。

◇ 書道の魅力 ◇

最近、市川に住んでいる小学校1年生と幼稚園児の孫娘二人が我が家にやってくると、習字をやろうとせがむ。その都度、一文字か二文字の意味と基本を教えると、実に楽しそうに伸び伸びと自由奔放に筆文字を書いて遊んでいる。ここに書道の原点を見る思いがしている。書道を始めてたかだか6年半であり、奥の深い書道について語れる術を持たないが、線と点が造り出す筆文字の美しさに魅せられ続けている。また、文字と文字の間の空白部分の重要さ等もうっすらと感じるようになり、文字の意味するところを考えながら創作する楽しさと、完成時の充実感を味わえるようになってきた。さらに、色々な書道展に足を運び、良い作品に接して刺激を受け、己を鼓舞する機会も増えてきた。最近、のれんや看板、神社仏閣の門で美しい文字を発見すると、暫し立ち止まっている自分がある。もっと中国と日本の書の歴史を体系的に研究したいと思ひ、書物に向かう時間も増えてきた。

◇ 書道のすすめ ◇

書道に少しでも興味のある方は、書道教室



出展作品の前に
(東京都美術館
にて)

を覗かれることをお勧めしたい。

1) 書道を始めると生活に張りとりリズムが生まれ、書けば書くほど確実に上達し創造する楽しみが増える。また、パソコンの時代になり手書き文字での心の表現が少なくなってきている昨今、人間味ある手書きの温かさに触れることが出来、心が落ち着く。精神統一にもなる。

2) 書道教室は結構あり、手軽に習える。

3) 硯、墨、筆、紙を用意しておけば何時でも手軽に書ける。

4) 大作を書けば別だが、体力を然程必要とせず年長者でも続けられる。若い内から習うに越したことはないが、高齢者でも遅くない。

5) 月謝は会によってまちまちと思うが、我々の会は半紙だけの稽古の場合、月3千円であり、やり方次第で費用は少なくて済む。

6) 一人で楽しむことができる。また、教室の老若男女の仲間も出来、地域でのコミュニケーションも広がる。私も退職前は地域との関わりは近所を除き殆ど無かったが、最近、市の文化協会のお手伝いをするようになり、市主催の文化祭や子供書道教室指導等に駆り出され、地域での知人も増えてきた。

☆ ☆

3ヶ月程前、73歳の男性が我々の会に入会してきた。私同様、書道は小学校以来のことだが、すっかり我々に馴染み、毎週嬉々として書とコミュニケーションを楽しんでいる。仲間が増えるのは楽しいことだ。

佐々木昌信さんに聞く！

衝撃だった ムービングファーストボール

-プロ野球審判生活 18年-



佐々木 昌信 (ささき まさのぶ)

日本野球機構セントラルリーグ審判員。1969年館林市栄町生まれ。館林市立第一中学校卒。昭和63年3月館林高校普通科卒。大谷大学文学部真宗学科卒。

家族は奥様と子供4人

◇ 野球との出会いはいつですか

館高の野球部に入部してからです。小学生の時に剣道と少年野球やっていて、中学では剣道部に入ったんです。市の代表選手として県大会出場も経験しました。野球は手首を使うスポーツで高校に入ってからでも遅くないといわれていたので、高校に入ったら野球をやろうと小学生の時から決めていたんです。

◇ プロ野球の審判を選んだ動機は

私はお寺の息子で、ゆくゆくは寺の住職になればならないことから、仏教について学ぶ大学に進学しました。父からは寺に帰ってくるまでは好きなことをやってよいといわれていましたので、大学でも野球を続けたのです。大谷大学は京都と滋賀の15大学で構成する京滋大学リーグ所属で、チームでは外野手あるいは一塁手として活躍しました。私が2年生の時にはリーグ優勝も果たしました。

卒業したら社会人で野球を続けることを考え企業の選択で迷っていた時、元プロ野球の審判で京滋大学リーグの審判を指導していた人から「プロ野球の審判テストを受けてみないか」と勧められたのです。「君は体型や視力が良い等審判に向いているよ、審判は野球をよく知っていることが大切で、審判だけやっている人よりも野球選手だった人のほうが向いているのだ」と言われたのです。そこで遊び半分でテストを受けたら合格、審判になったのです。両親もびっくりしていました。父は野球が大好きなものですから、「それならやりなさい」とすぐに賛成してくれました。

私にとって都合のよいことに、審判は1年契約の仕事です。したがって、自分の都合で辞めても若い人のチャンスが増える仕組みで他に迷惑をかけなくて済む、というも職業として良かったですね。こんなスタートで今日まで18年間続けています。

◇ 審判の仕事で大変なことは

当初は、憧れていたプロ野球の世界で仕事ができるということに魅力を感じました。しかし、右も左もわかっていない全くのど素人でしたから苦労しましたね。“審判とはこんなに難しい仕事か”と。すべてが大変なのですが、一番は体力でしょう。体力をこれだけ使う仕事だとは思いませんでした。

それに頭を使うことです。常に先の動きを読みながら行動しなければならない。頭の回転が速くなければ駄目です。プロの選手の動きは早いですからそのスピードに対応してはいけません。当初はプロのスピードに慣れるというのが大変でしたね。

塁審を務めていても、ボールが飛んだ位置によってどのポジションに立つのが最適かを瞬時に判断しその位置に立てないと……。どの場合にはどこに立つといったことを身体が覚えて、最適なポジションに自然に立てるようになるのに4～5年かかりましたね。

◇ ジャッジ以外に仕事は？

試合で使用するボールを管理することです。試合球はニューボールですがそのまま使用するわけではありません。ボールは馬皮製で皮を保護するために表面にローが塗ってある。

このローを土で汚して取り除くのです。その試合で使用する全てのボール1個1個、土を着けて手で捏ねてローを取り除きます。審判全員で試合前にボール捏ねを行っています。

また、試合がスムーズに進むように、常にボールの行方だけでなく色々なところに目配り、気配りして球場全体の動きとか雰囲気気を把握して行動しなければならぬ。こうしたことが疲れますね。

テレビを見ていては分からない部分が色々あります。球審の場合、ピッチャーのくせを把握しておかなければいけないし、エースといわれているピッチャーが投げるときは特に気を使いますね。投げたボールが“いつもの力が出ていないな”とか、バッターなら“いつもは打てる球なのになぜ見逃すのだろう”など、細かいところを情報として入れていきますので、ある意味で監督よりも選手のコンディションを把握していますね。

監督によっては選手交代の合間に、球審にピッチャーの調子を聞く人もいます。「今日の出来は良くないだろう」などと聞かれ、「駄目ですね」と答える時もあるし、「見た目ほど悪くないですよ」と答えるといった会話です。こうしたことを利用する監督は結構多いです。というのは、キャッチャーによっては、年上の先輩が投げているとき「今日は駄目です」と言えない人がいます。

球審は冷静に見ていて、はっきりものを言いますから、監督は審判の意見を活用するのです。一切聞かない監督もおります。聞く監督と聞かない監督は半々かなあ。野村監督、落合監督等には良く聞かれました。

◇ 年間スケジュールはどんなですか

契約は毎年1月1日から12月31日までの1年契約です。いわゆる誤審やトラブルが多い人等、次年度契約が難しいと判断された人には、8月後半頃から「このままでは来年の契約は出来なくなるよ。もっと努力して下さい」と言われ、そしてシーズン終わりに努力を評価してもらえると、次年度も契約が行われるわけです。

野球機構は10月31日に“次年度も貴方と

契約をしたいと考えています”ということだけを記した通知を、継続する人に対してだけハガキで行うのです。各審判の自宅には11月1日か2日に届きます。3日、4日になってもハガキ連絡がなければ解雇ということです。こうした人が毎年何人かは出ています。

審判はプロ野球全体で60名いまして、すべて日本野球機構の所属です。セントラルリーグ、パシフィックリーグに分かれています。配属がそのようになっているだけです。一軍、二軍は選手と同じようにありますが.....

契約が継続されると、審判としての仕事は2月の選手のキャンプインと同時にスタートです。経費削減ということで平成22年からは2月10日スタートとなりました。従って、1月中旬から自主トレーニングで体力作りを行って、各球団のキャンプインと同時にキャンプ地に出向き、選手と一緒に1ヶ月間トレーニングを積むわけです。

1年間続けられる体力を作るとともに、投手の投げる生きたボールを見、打者の打球を追い審判技術を磨くわけです。2月いっぱいにはキャンプ地で過ごして3月はオープン戦、そこでキャンプでやった諸々を試しながら調整しつつ転戦、4月に開幕を迎えます。

開幕したら10月のシーズン終了まで7ヶ月間の長丁場が続きます。休日は、基本的に野球の試合のない日が休みということです。現在は月曜日と月に3日間の休みを2度戴きます。私たちが休んだ試合は日頃は二軍の審判を務めている人が代わりに一軍の審判を務めることで休みを確保している状態です。全国を転戦するチームに帯同しての生活ですから、自宅に帰る日はほんの少しだけあとは各地のホテル住まいになります。今は試合時間が長いですし、その意味でも大変厳しいですね。

したがって、この長丁場では体調管理が最も大切ですね。“風邪引いたから休みます”というわけにはいきません。倒れてしまったら休まざるをえませんが、高熱があっても審判しなければならない。そんな体調にならないように努めるため、日々の節制が大切です。審判は5人でチームになっていて、1塁塁審、

2 塁塁審、3 塁塁審、球審、ネット裏での控え、を試合ごとにローテーションで務めます。球審を務めるようになったからそれが続くということはありません。

◇ 楽しいと思うことは？

楽しいことが本当に少ない仕事でして・・・。良く聞かれますが何でしょうね。野球はグラウンドで見るとはなくて家で寝っ転がってテレビで見るのが何よりですよ。

審判やっていると、何事もなく試合が終わるのが、楽しくはないけどほっとするので、その部分かな。あとは、日本の頂点の技術がぶつかり合う現場でその一員として仕事しているという満足感でしょうか。

日本中が注目するような試合で球審を務めたら、反面いやですけど、無事終われば何とも言えない気持ちを味わえることでしょうか。何事もなく終わって当たり前の仕事です。実際にやってみて、こんなに大変な仕事だったかとおつくづく思います。

時には誤審もあります。でもそこどころが“人間がやっているから面白いのだ”という部分でもあると思います。ただ日本人の性格上、全てにきっちり出来てないと認めない、ということで、グレーゾーンで終わらせるということが国民性から出来ない。ですから、余計にこの仕事はきついですね。

メジャーリーグとの交流試合で、アメリカのアンパイヤは、誤審しても“あっ間違っちゃった”と、あっけらかんと笑っています。日本でそんなことがあったら大変ですよ。文化が違うと言ってしまえばそれまでですが。

◇ 野球とベースボールの違い

一言で言うと、とにかく点を取るのがベースボール、点を取らせないのが野球です。ベースボールは 10 点取られたら 11 点取ればいいという考え方、野球は 1 点取られたら駄目なのだという考え方です。ですからベースボールの美学は 11 対 10、野球の美学は 1 対 2 です。ここが根本的に違います。

アメリカで発祥したベースボールは、今日までこの考え方で取り組まれています。しかし、日本に渡来してきたことによって、アメ

リカ人に比べ圧倒的に劣る体型・体力、パワーから、アメリカに勝つにはどうするか、点が取れないなら守りを固めて勝つということで、投手は変化球を磨くなどテクニックを駆使、さらに作戦を考えて取り組んだのが野球です。

アメリカのチームと日本のチーム、まともに打ち合いしたら日本のチームは勝てません。大人と子供で試合をやっているようなものです。ですから、スポーツとしての伝わり方が違っていったというそもそものスタートだと思います。

日本では最初から楽しくはやっていないのです。ベースボールではなくて野球なのです。中学校も高校も“野球部”です。“ベースボール部”ではない。他のスポーツは、“バスケット部”、“サッカー部”、“バレーボール部”ですよね。籠球とか、蹴球とか、排球とか日本独自の文字を当てて部活動の名称にはしていません。世界の共通語が普通に日本でも使われている。日本語表示は野球だけですよ。サッカー、バスケット、バレーボール、みな外来語で発していますが野球だけは一般的にベースボールとは言っていません。ちょっと変わっていますよ野球界は。

◇ 最も印象に残っていることは？

最も衝撃を受けたのは 2002 年にメジャーリーグ・ヤンキースが来た時ですか。ジャイアンツと試合をした時、度肝を抜かれたというか、生まれて初めての経験をしました。

ピッチャーが投げた 150Km のスピードボールがキャッチャーに向かってくるのですが、ボールが動くんですよ。揺れて来る。「ムービングファーストボール」という名前なのですが・・・。

“まっすぐ”といえ、直線に向かってくるはずが、動いているのですよ。ですから最初は地震か何かが起こったのかと思った。それがど真ん中にバシッと納まった。

球審やっていてびっくりして一瞬ジャッジできなかった。“何だ今のは”と思って、それから“あっジャッジしなければ”と「ストライク」をコールした。2 球目も同じ球、スピー

ドガンをみたら 155Km 出ている。“え！今のは何だ”と書いていたら、バッターも同じ思いのようで固まってしまっていました。「佐々木さん今のは何だ」と聞かれたのですが、「初めて見ました」としか言えませんでした。

メジャーリーグのピッチャーの投げるボールを判定する機会がなかったら見る事のなかったボールです。漫画の世界ですよ。“巨人の星”とか“消える魔球”とかありますね。そんな世界のボールでした。“漫画でなくて実際にあるんだ”という感じでした。

日本人のピッチャーはメジャーの投手とは体格、手の大きさ、指の骨格からして違いますからこうしたボールは投げられません。ですから、日本では見ることはできないですね。あれは衝撃だったです。

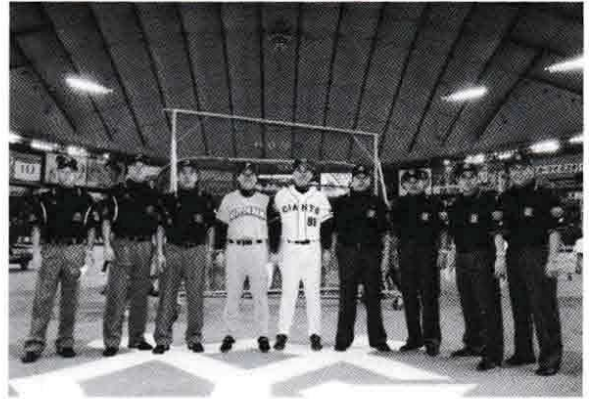
あとは、一軍で最初に球審をした試合ですね。今から 14 年前のことですが今でも鮮明に覚えています。緊張感の中、終わってホッとしましたが何も覚えていなかった。2 週間前に予定表が出たときから緊張していて、毎日毎日食事が喉を通らないような状態でした。終わってホッとして、“ああこんなものか”ということでしたが・・・。

役割は違いますが、日頃テレビの映像を通して見ていた人、憧れていた人と同じ場所で一緒に仕事しているというということで興奮しましたよね。ジャイアンツでは中畑選手とか原辰徳監督がまだ現役で四番を打ってましたから。

◇ これからは

私は、最初からセントラルリーグの審判としてやってきましたが、2011 年からセントラル、パシフィックのリーグ別が無くなります。メジャーリーグの審判をやりたいの思いはありますが、語学力が壁になって現実としては厳しいですね。

アンパイヤに求められる語学力とは、片言ではだめで、英語で政治の話が語れるくらい語学力が必須なのです。ですから、日米野球などの交流試合で審判を務めるということでしょうね。そのような場では、メジャーリーガーとも交流を図れますから。そうした意



2009 年日本シリーズ（東京ドーム球場）にて
右端が佐々木さん

味では、審判になってよかったなと思っています。

それと審判の地位向上を目指すということです。まずは審判というものを日本野球機構側の人に認めてもらうことです。現状は“審判なんて誰にでもできる“といった認識なのです。ですから審判の給料が高すぎるなどという言葉が簡単に出てきます。

日本の場合は、アンパイヤというよりも審判員ということで堅苦しいイメージで捉えられています。そして、野球の場合、“審判はついで”のイメージですね。選手より下だという。とくにプロ野球はそうなんですよ。

こうしたことが多々ありまして審判の存在がクローズアップされていませんし、待遇面でも低く評価されているのが実情です。この認識を払しょくしていかなければならない。メジャーリーグでは、アンパイヤは重要視されるし尊敬もされていて別格扱いされています。待遇面もよいです。

私は現在プロ野球審判労働組合支部長の任にあり、問題解決のため努力しているところです。60 名の審判員ひとりひとりが、それぞれの思いで仕事をしておりますので纏めていくのは大変ですがやらなければならないと思っています。

われわれの発信不足ということもありますが、日本の文化の中ではまだ馴染んではない審判の地位向上にむけて、全力で取り組んでいきます。（インタビュー 谷田部和之）

<p>テクニカル・コーディネーター 建築家</p> <p>大隈清道 (29年卒)</p> <p>〒273-0022 船橋市海神西 1-1193-1-1006 電話 0474-33-6790</p>	<p>館林高校東京同窓会名誉会長 群馬県人会連合会会長代行・副会長</p> <p>鈴木敏男 (23年卒)</p> <p>連絡先 〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町 2-55-7 ナナヨービル 七陽商事株式会社 電話 03-3663-7740</p>
<p>株式会社 リアルエスピースタジオ</p> <p>代表取締役 宇治川 譲 (29年卒)</p> <p>〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨 1-19-18 ウメデンビル 電話 03-5907-5812(代) FAX 03-5907-5814 HPhttp://www.real-sp.co.jp</p>	<p>葭葉法律事務所</p> <p>辯護士 葭葉昌司 (27年卒)</p> <p>〒106-0031 東京都港区西麻布 3-21-20 霞町コーポ 709号室 電話 03-3478-0877(代) FAX 03-3478-0879</p>
<p>財団法人 神津牧場</p> <p>岩崎 充利 (29年卒)</p> <p>自宅〒102-0074 東京都練馬区関町北 4-21-10 電話 03-3594-2808</p>	<p>学校法人 関西外国語大学 関西外国語大学・大学院 関西外国語大学短期大学部</p> <p>教授 内田信也 (30年卒)</p> <p>自宅 〒177-0044 東京都練馬区上石神井 1-3-16 電話 03-3594-1173</p>
<p>小林公認会計士事務所 公認会計士・税理士</p> <p>小林 功一 (54年卒)</p> <p>東京事務所 〒123-0851 東京都足立区梅田 8-5-6 電話 03-3880-2187 FAX 03-3880-2138 群馬事務所 群馬県邑楽郡邑楽町中野 3013-14 電話・FAX 0276-88-1844</p>	<p>相澤・藤井法律事務所</p> <p>辯護士 相澤 建志 (36年卒)</p> <p>〒104-0061 東京都中央区銀座 7-2-22 電話 03-3574-0880(代) FAX 03-3572-0028 E-mail: aizawa-l-o@nifty.com</p>
<p>株式会社 キャン美容室</p> <p>取締役社長 浜田 邦夫 (39年卒)</p> <p>〒171-0031 東京都豊島区目白 3-4-11 電話 03-3953-0951</p>	<p>辯護士 中村 茂八郎 (25年卒)</p> <p>連絡先 電話 03-3248-2501 自宅 〒145-0062 東京都大田区北千束 1-15-1 電話 03-3717-8802</p>

東京同窓会

館林市に絵画を寄贈

東京同窓会は、会員の大塚荘治さん（昭和24年卒）制作の50号の絵画「春の舞（Part II）」を平成21年12月、館林市に寄贈しました。

「春の舞（Part II）」は“日仏交流150周年記念芸術都市パリ賞”を受賞した50号の大作。館林市では、さっそく市庁舎3階の市長応接室に通じる通路に掲額し市民の皆さんに親しく鑑賞して戴くようにしたうえ、安楽岡一雄市長から館高東京同窓会および大塚さんに感謝状が贈られました。

「春の舞（Part II）」を館林市に寄贈することになった契機は、大塚さんが旧制館林中学校（現館林高校）を卒業してすぐに館林中学校（現館林第一中学校）の美術教諭として奉職したものの先生としての力不足を感じて、もっと美術の勉強をしたいと上京を決意、当時の校長先生や教育委員会に対して、勉強して必ず戻りますとお願いして大学に進学したものの、卒業後は帰郷せず東京に留まり今日



「春の舞（Part II）」を前に感謝状を持つ大隈清道会長と安楽岡一雄市長

に至ってしまったことから、少しでも郷里に恩返しをしたいとの思いからだという。

大塚さんは、太平洋美術会会員、日本水彩画会会員、ハブスブルク宮廷芸術会員、JIDA名誉会員、WAC会員で、カルーゼル・ドゥ・ルーヴルグランプリ受賞、エジプト文化賞大賞、読売テレビ賞受賞など、国内外で数々の受賞を果たす活躍をしています。

機会があり館林市役所を訪れたら、3階まで足を運び「春の舞（Part II）」を鑑賞することをお勧めします。

—編集後記—

・より多くの会員を会報に登場させようという役員会の決定で、「元気で〜す」の頁を設けました。原稿執筆は億劫という人にも、元気な顔だけでも多くの会員に知らせて欲しいとの思いからです。

今号は第1回のため事務局が勝手にお願ひした方々に登場して戴きました。次号からは会員皆様の自薦での投稿（締め切りは12月末）をお待ちします。

・インタビューは、佐々木昌信さん。昭和63年卒の40歳、プロ野球の審判として現役バリバリの方です。

一見こわもての風貌ですが、根は仏教を学び、実家（真宗大谷派覚応寺=館林市栄町）に帰った時には副住職として檀家の方々に接している等、その風貌とは裏腹の大変実直で思いやりのある優しい方でした。（K. Y）

年 会 費 納入のお願い

平成22年度（平成21年10月～平成22年9月）の年会費（3,000円）未納の方は、住所、氏名、卒業年を明記して戴き、下記のどちらかにご送金いただければ幸甚です。

なお、会の財務事情は、好転しつつあるとはいえ未だ厳しく、今後の御案内は会費納入者を優先させていただかざるをえません。深いご理解のうえご協力をお願いします。

- ・ 郵便局 振替加入者名 **館高東京同窓会**

No 00160-3-178406

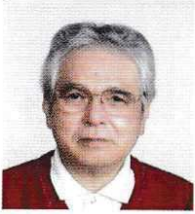
- ・ ゆうちょ銀行 019支店

名義 **館高東京同窓会**

当座預金 □座番号 **0178406**



元気で～すー会員便り



須藤 仁治 昭和 27 年 3 月卒（館林市旧大島村本郷出身）東京都世田谷区在住
 仕 事 元みずほ銀行（旧第一勧業銀行）勤務
 趣 味 日本庭園の鑑賞
 日本庭園の鑑賞は、京都の御所、桂、修学院離宮他、神社仏閣の日本庭園を見て回っている。これはいつ終わるか分からない。元気なうちは続けたい。



大野 薫 昭和 31 年 3 月卒（邑楽町旧中野村蛭沼出身）埼玉県越谷市在住
 仕 事 元埼玉県立高等学校教諭
 趣 味 弓道、音楽鑑賞、古典芸能
 20 代以来の嗜み、弓道・音楽鑑賞、体調を崩して活動を縮小。代わってグラウンド・ゴルフを楽しんでいる。後世の為と憲法九条の会に入っている。



渡邊 紀久次 昭和 34 年 3 月卒（館林市谷越町出身）埼玉県南埼玉郡宮代町在住
 仕 事 無職（元東京電力㈱勤務）
 趣 味 写真、陶芸、囲碁
 4 年前会社勤めをやめ、埼玉県生きがい大学 OB 会で、パソコンや陶芸を学びつつ、NPO「日本ネパール女性教育協会」の手伝いをしている。



中野 榮一 昭和 54 年 3 月卒（館林市代官町出身）東京都新宿区在住
 仕 事 ホテル グランドパレス販売促進部
 趣 味 テニス、スポーツ観戦
 人と人との出会いの場を提供するホテルの法人宴会の仕事のコツコツとやっています。館林高校東京同窓会は大切な得意先の一つです。



飯塚 秀明 昭和 49 年 3 月卒（館林市外加法師町出身）
 埼玉県入間郡三芳町在住
 仕 事 アサヒ飲料㈱（自販機の営業、元住友銀行勤務）
 趣 味 旅行
 父喜平（元正田醤油勤務）は 93 歳で健在。年に数回の里帰りと出張先からの名産品送付。精いっぱい親孝行を心がけています。先祖に感謝！



藤井 基且 昭和 37 年 3 月卒（館林市鷹匠町出身）さいたま市南区在住
 仕 事 桐丘学園（群馬県）勤務（元高島屋百貨店勤務）
 趣 味 健康山登り
 山登りは、健康維持・増進に欠かせない細胞に作用する“フィトンチッド”、精神へのアクティブをもたらす“セレトニン、ドーパミン”等の効用があります健康山登りをしませんか。



大輪 浩幸 平成 7 年 3 月卒（邑楽町中野出身）東京都荒川区在住
 仕 事 飼料及び肥料原料卸売業（営業）
 趣 味 音楽、スポーツ観戦
 東京での生活も今年で 14 年目になりました。厳しい世の中ですが不況に耐えながら頑張っています。神田辺りの居酒屋に良く出没するので、見かけたら声をかけてください。